

昭和 54—57 年



## 技術伝承の取り組み

昭和 57 年機械科卒  
西尾 修

今工創立 100 周年。改めて母校の歴史と伝統の重さに感銘を受けております。と同時に、これまで築いてこられた方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

私たちの期の入学式は、新築の体育館で行われ、全日本女子バレーボールチームを招いての式典があったことが強く印象に残っています

さて、私事となりますが、母校を卒業後、工作機械のメーカーに五年間ほど就職し、その後、家業の鉄工所を継ぎました。10 年前、父が他界し、今は私一人でやっています。父は、プレスや横押し of 金型を作りましたが、私は、機械が好きだったので、工作機械を中心に、いろいろな機械の部品加工をして現在に至っています。

「いつか自分で作った機械で削りたい」という夢があり、2011 年 12 月待望の「自社製汎用フライス盤」を完成させました。設計から部品加工・組立まで自分一人で行いました。この機械は、社内設備として日々活躍中です。自分で作った機械で仕事をするのは、感無量であります。何とも言えない喜びがあります。

最近の加工業界のことですが、NC 機が主流となっています。バブル期ころから、小さな工場にもどんどん NC 機が設備されるようになってきました。いろいろなものも、NC 機で加工することを前提に設計されるようになり、加工図面もそのようになってきました。このことについて、私は、非常に危機感を持っています。仕事から色々な会社の工場を見ますが、驚くことに、新入社員にいきなり NC 機を使わせているところがほとんどです。本来なら、まず汎用機をある程度使い、機械の基本をしっかり身につけ、それから NC 機を使うべきではないかと思えます。汎用機は、ハンドルに

伝わる振動や重さによって、バイトの切れ味や、品物の加工具合がわかります。その感覚を身に付けてから NC 機を使わなければ、大切な加工のノウハウが得られないまま今後をすごすこととなりかねないと思います。難しい加工の場合は、特殊な方法を使うため、いろいろなノウハウが必要になってきます。その時に、汎用機を使っている経験が大変重要になってくると思います。

団塊世代の大量退職の時期とも重なり、熟練工の方が、だんだん現役から退き、若い人の育成も難しくなっているのが現状だと思います。生意気ですが私はこの事態を憂慮しています。昔は、順番に技術を伝えていたと思いますが、今の現状は、熟練工の方が、保身のため、その技術を後輩に指導しなくなっています。このままでは、昔の技術や技が円滑に伝承されるかほんとうに心配です。

私は、小学一年生より剣道を習っています。今工在学三年間も剣道部でした。剣道は、その道場で一番上の先生が初心者を指導します。基本が大切なので、道場の最高位の先生がきちっと初心者を指導するのです。加工業界も、基本の大切さを再認識する時期ではないでしょうか。

将来は、私が作った汎用フライス盤を教材として、技術伝承をして行こうと考えています。

設計→部品加工→組み立てと、一人の人が一連の作業をこなす事で、トータルな技術を磨くことが出来ると考えております。微力な私一人で、どこまで出来るか解りませんが、精一杯頑張っていくつもりです。末筆になりましたが、このような思いを伝える機会を与えてくださったことを心から感謝しております。